



みんなと一緒に、楽しいね。

先月は、職員の家族がコロナウイルスに感染し、濃厚接触者となった職員が陰性とわかるまで、保護者の皆様には大変ご心配をおかけしました。また、早いお迎えや登園自粛などのご協力を頂き、ご迷惑をおかけしました。いっきに緊張感が高まった中でも、たくさんの優しい言葉をかけていただき感謝しております。こんな時だからこそ、人の優しさや温かさが大事だと改めて皆さんに教えて頂きました。これからも感染防止に注意してまいります。今の厳しい状況をみんなで乗り越えていけたらと思います。

朝夕、涼しい風を感じるようになってきました。この夏は、長い梅雨が明けたと思ったら怖いぐらいの厳しい暑さが訪れ、熱中症への配慮と、コロナ禍の中での水あそびの在り方を意識しながら水あそびを楽しみました。右のドキュメンテーションにもあるように、子どもたちは大好きな水という素材を通じて、たくさんの発見を繰り返し、学びを深めたようです。また、服を脱いだり水着に着替えるという繰り返しの中で、着脱がとても上手になっていたり、プールバッグから服を出したり、片付けることで、自分の物の管理も出来るようになってきています。毎年、夏が終わる頃になると、子どもたちの様子が遅くなり、大きくなってきたなと感じます。楽しいことが育てるものはたくさんあるのですね。

保育実習に来ている学生が、実習初日の緊張していた時に、ほっこりしたという乳児園でのエピソードを教えてくださいました。“絵本の字は読めないけれど、2歳児さんが、1歳児さんにページをめくりながら、指差しをしたり、「これっ。」と言いながら見せていた。2歳児さんが自分よりも小さい子どもたちに絵本を読んであげたいという気持ちや、言葉がなくても絵本を楽しんでいる1歳児さんの姿が印象的だった”と話してくれました。

また、職員から聞いた幼稚園での夕方のエピソードでは、“大量のヨーグルトの空き容器を使って遊んでいる場面で、4歳児さんが空き容器を積み上げて

いる様子を3歳児さんが側でじっと見ていた。そのうち、4歳児さん同士が喧嘩になりそうになると、年長児さんが、「こっちはどう?」「ここに積む?」などと、提案しながら、うまく仲裁をしていた。少しずつ、保護者の方のお迎えが来て、年長児さんと3歳児さんだけが残ると、今度は、年長児さんが3歳児さんと一緒に、空き容器を床の上で長くながく繋げて遊び始めていた。夕方のひとときに年長児さんの何気ない関わりがとても素敵だった”と、楽しそうに話してくれました。

年長児さんは、日頃の関わりの中から、4歳児さんが複雑に積み上げることができる、3歳児さんは長く繋げて遊んでいるということを経験しているのでしょうか。子どもたちは、今まで見てきたことや、してもらったことがちゃんと心に残っているのです。保育園生活の中で、相手の気持ちをくみ取ったり、優しく返したり、また、一緒にいることで育ち合っている姿が素敵だと思いました。

異年齢での関わり…という、固く聞こえますが、大きいクラスの子どもたちがやっていることを見て憧れたり、小さい子どもたちへの優しさや思いやりは、さまざまな経験を通して、感じたり、考えながら、身につけていくものです。コロナ禍の中で、密を防いでとは言いますが、乳幼児期の育ちには、人との関わりは欠かせません。換気や一人ひとりの体調の把握などの配慮を行いながら、絶えず、楽しい環境作りを考えて、みんなの中で、一人ひとりの子どもたちが心豊かに、たくましく育つように関わっていきたくと思っています。

今月は延期になっていた運動会があります。楽しみにしていた乳児園の保護者の方には申し訳ありませんが、幼稚園の子どもたちのみの参加となっています。プログラム内容も縮小されますが、段原みみょう保育園の子どもたちと一緒に、秋空の下で笑顔満開の楽しい思い出の一ページとなるように皆さんと一緒に応援したいと思います。 園長

ほかほかドキュメンテーション 9月

～ 「楽しい保育」 みんな一緒にびっくりぽんぽん! 今年の水あそび編 ～

コロナ禍での水あそびは、たくさんのたらいを用意し、水の感触を楽しめるようにしたり、色水や氷えのぐ、氷スライムを使ったり、手作りスライダー、洗濯ごっこやえのぐあそびのコーナーなどいろいろなあそびを用意し、それぞれが好きなものを選ぶように考えてきました。一人ひとりが自分の好きな水あそびを選択し、好きなあそびだから夢中になったり集中して遊んでいる姿が多く見られました。そして、子どもたちの楽しむ姿から様々な発達や成長のきっかけを見つけました。

りす組さんの時からの成長



ペットボトルに水を入れようとしてもこぼれたり、水を流すときもジャーっと流れ出る水が楽しかったりしました。

らいおん組さんになるとカップの角から水をペットボトルに移しています。何気ないあそびのなかにも試行錯誤があり、成長していますね。



異年齢の関わりの中で育つもの

りす組さんの側ですっと楽しそうな姿を見つめていたKちゃん。お兄ちゃんたちがたらいから離れると、そこをのぞいてみたり、手を伸ばしてみたりしています。



あれ? なにかな?



わたしも…

0歳・1歳・2歳という年齢の区別ではなく、家族のような異年齢の関わりの中で、目には見えないけれど育まれている大切なものがあると思っています。そして、一人ひとりの好きなあそびや、そのあそびの中での学びを感じています。9月からもどんな発見や驚きがあるのでしょうか。一人ひとりの好きなあそびと可能性と一緒に探し続けたいと思っています。